各　位

浦安鐵鋼団地協同組合
景況実感調査委員会

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(2023年7月分)

ご協力ありがとうございました。2023年7月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 143社　　回答 138社　回答率 96.5%

	前　月　比						前　年　同　月　比					
調査項目	10%以上増加・上昇・好況	やや増加・上昇・好況	横這い・平常	やや減少・下降・不況	10%以上減少・下降・不況	計	10%以上増加・上昇・好況	やや増加・上昇・好況	横這い・平常	やや減少・下降・不況	10%以上減少・下降・不況	計
売上数量	8社 5.9% (19.0)	16社 11.8% (25.5)	42社 30.9% (34.3)	46社 33.8% (18.2)	24社 17.6% (2.9)	136社	12社 8.8% (9.6)	18社 13.2% (12.5)	42社 30.9% (36.8)	41社 30.1% (25.0)	23社 16.9% (16.2)	136社
売上高	7社 5.1% (21.9)	16社 11.6% (24.1)	41社 29.7% (35.8)	48社 34.8% (14.6)	26社 18.8% (3.6)	138社	18社 13.2% (16.9)	26社 19.1% (19.9)	36社 26.5% (29.4)	34社 25.0% (23.5)	22社 16.2% (10.3)	136社
在庫数量	5社 3.8% (1.5)	24社 18.2% (14.5)	71社 53.8% (58.8)	27社 20.5% (22.9)	5社 3.8% (2.3)	132社	13社 10.1% (7.0)	17社 13.2% (16.3)	59社 45.7% (46.5)	24社 18.6% (17.1)	16社 12.4% (13.2)	129社
販売単価	3社 2.2% (0.0)	8社 5.8% (6.6)	93社 67.9% (80.9)	33社 24.1% (11.8)	0社 0.0% (0.7)	137社	19社 14.1% (19.3)	33社 24.4% (29.6)	58社 43.0% (36.3)	22社 16.3% (11.9)	3社 2.2% (3.0)	135社
収益状況(粗利)	4社 2.9% (12.4)	11社 8.0% (21.9)	52社 38.0% (43.8)	48社 35.0% (19.0)	22社 16.1% (2.9)	137社	11社 8.1% (6.6)	14社 10.4% (17.6)	46社 34.1% (35.3)	33社 24.4% (24.3)	31社 23.0% (16.2)	135社
稼働率(生産・加工設備)	2社 1.7% (8.5)	12社 10.2% (16.9)	60社 50.8% (54.2)	33社 28.0% (17.8)	11社 9.3% (2.5)	118社	8社 6.8% (4.3)	16社 13.7% (17.1)	57社 48.7% (48.7)	23社 19.7% (23.1)	13社 11.1% (6.8)	117社
入出庫のトラック台数	1社 0.8% (7.7)	12社 9.1% (18.5)	65社 49.2% (51.5)	43社 32.6% (20.0)	11社 8.3% (2.3)	132社	7社 5.4% (2.3)	14社 10.9% (17.8)	65社 50.4% (51.2)	26社 20.2% (23.3)	17社 13.2% (5.4)	129社
	現在の景況感						３ヶ月後の景況予測					
	0社 0.0% (0.0)	5社 3.9% (7.4)	56社 43.4% (48.1)	51社 39.5% (32.6)	17社 13.2% (11.9)	129社	2社 1.6% (0.0)	22社 17.1% (14.2)	85社 65.9% (67.9)	17社 13.2% (15.7)	3社 2.3% (2.2)	129社
特記事項												

注　①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
②(　)内の数字は前月のパーセントです
③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は特記事項欄に別途記載いたします
④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください

事務局　TEL：047-350-5311　FAX：047-350-5316

景況実感調査(2023 年 7 月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

① 7 月は稼働日見合いの数量となり、ここ数カ月低位安定している。人手不足と世界経済の鈍化で、しばらくはこの数字が続くとみている。コロナ前の水準には戻らないと考え、量より質へ転換し収益改善に取り組まなければならない。

② 7 月の販売量は、6 月と日割りはほぼ同じ。稼働日が少ない分少なくなった。市況としては、6 月の電炉メーカーの値下げが尾を引いており、安価な輸入材とともに目に見えて下がってきた。

③ 前月に引き続き荷動きは低調。日割りでも減少した。価格も下がり、高い材料を置きっぱなしにできず安値と合わせて在庫を回している状況。需要回復を願うばかりだ。

中板

① 中板の実需は精彩を欠いており、東京製鐵の値下げ以降、相場は弱基調が続く。客先は先安を見越して当用買いに徹しており、荷動きは低調。しばらくはこの状況が続く見込み。

② 7 月の加工量も、5 月以降 3 カ月続けて前年同月比で減少となっていないことから、実需低迷に底打ち感が出て来ているのかと楽観的な気持ちになるが、自販量については、近年最低の数字が続いており、依然として需要の低迷は続いているのが実態なのかと悲観的な気分になってしまう。とくに店売りの極端な落ち込みが顕著で、これは長い間のユーザーの紐付き化による店売りマーケット狭隘化や、それに伴い特約店の当用買いが常態化していることによるのではないかと思われる。コイルセンターにとっては、人材難・機械の老朽化とともに、今後の店売り分野がどのようになってゆくのか、国内高炉の店売りへの今後の取り組み方針と相まって非常に懸念されるところである。

厚板

① ＜全体感＞厚板を扱う各分野においては総じて低調。好調といわれた建産機も弱含みへ下方修正。首都圏の建材案件は大型再開発で動きはあるものの、中小物件は依然として低迷。7 月の東鉄値下げ以降、高炉は価格維持の姿勢を維持しており、電炉との価格差が広がる傾向にある。また、高炉内でも店売り・紐付きに価格差が発生しており、流通各社は複雑な市況に難しい対応を迫られている。＜分野別＞建機分野では、23 年度は前年度比で同水準か若干弱含みの期初計画であったが、ここにきて中小型のコンストラクション系で計画を下方修正する動きが拡大してきている。産機分野は工作機械受注額が 6 ヵ月連続で前年割れしており、米国や中国等の景気減速を受けた調整局面が続いている。店売り分野では、厚板の市中在庫は減少傾向が続いており、在庫の過剰感は薄れてきているものの、中小建築物件の停滞から、市況は精彩を欠いた状況が続いている。

② 当社の建築機械向けは好調を維持していたが、機種によってはやや減少してきている。店売り関連は、人手不足の影響もあり案件の延期、中止等によりなかなか売上も増加してこない。
③ 6 月の東鉄大幅値下げ以降、荷動きが激減。ユーザー(ファブ)は値下がり待ちになり、物件明細を出さなくなった。一部業者は値下げに走っている。安い東鉄厚板は市中(本牧在庫、ロール含む)に全くなく、値下げしたのに物がない状況だ。市中の厚板はタイトで不足感がある。今の状態は東鉄ショックと呼べる状況だ。

一般形鋼・H形鋼

① 4 月以降、売上高は毎月、前月比微減傾向なるも月を追って減少幅は増加している。8 月は盆休みもあり、微減どころか激減するのではないかと戦々恐々。
② 職人不足で現場が動かない。
③ H形鋼は継続して比較的堅調な出荷推移。一方、一般形鋼は需給バランスからアングルの安値が目立つ状況。一部では仕入れを下回るような価格も聞かれる。また、需要が乏しいともよく耳にするが、日当たり出荷量に大きな下落は起こっていないと思われる。単純に供給過多もしくは在庫店の買い過ぎが、このような状況を招いた要因かと推測。安くしたからといって需要が増えるはずもなく、取り急ぎ需要に見合った在庫調整に取り組むべきだと考える。

異形棒鋼

① 鉄筋店売りは当用買い中心。価格は横這い。数量は伸びないが一次、二次加工はまあまあなので低位安定か。6 月は良かったが、7 月は少し落ち、8 月前半は盆休みのためそれなりに落ちついている。
② 7 月としては予想外の販売不振。小口・即納の末端需要は少なく、市況は少しずつ弱含みになってきた。秋口の需要回復を待つしか方策はない。

平鋼

① 7 月の店売りは 6 月と同様で日割りは横這いで推移していて悪い状況。8 月は夏季休暇もあり数量は見込めない。9 月以降の話はあるが、仕事が出て来るか不透明になっている。
② 荷動きは横這いで小口中心。建築向け加工品は好調だが、スポットの出はいま一つ。お盆前から荷動きが悪くなってきた。後半の荷動きに期待している。

軽量形鋼

① 中小物件の低調が続いているため、店売りの先行きが見えないが、秋には良くなってくれることを期待している。
② 受注状況は多少改善傾向。10 月以降、先は見通せない。

鋼管

① 7 月も期待した荷動き(倉出し)には及ばなかったが、在庫量はほぼ適正に戻った。価格は維持されており、採算性に変化はない。8 月お盆明けからの荷動き本格化に期待する。

構造用鋼

① 需要については、自動車がメーカーによって回復時期に差があり、関東では復調の実感が聞かれない。建機は大型堅調も、中小型は調整。工作機械、産機も需要減で先行き不透明。店売りは低位横這いの状況。在庫は販売量見合いでは過剰感がある。価格は、メーカーが動かず、現状価格堅持の商い。

磨棒鋼

① 自動車向け紐付き品の出荷は底を打ったものの、回復の度合いはたいへん鈍く一進一退の状況。今後も大きく伸びることはなさそうな雰囲気。建産機向けは変わらず。店売りついても低位のまま大きな変化なし。

その他

＜敷鉄板リース＞

①敷鉄板リースに関しては、例年でいうとこの時期は閑散期であるが、今年は建築物件を中心にまずまずの稼働率を保てている。公共土木工事が本格化する秋口までは辛抱。

＜ナマシ鉄線＞

①安い輸入材により市況価格が下値に引っ張られつつある。荷動き低調な状況が続き、客先の取り合いも散見され始めてきた。現行値の維持に注力して営業する方針。

＜鉄スクラップ＞

① 7 月のスクラップ市場は、発生・荷動き共に低調。相場は安定しているが、市況は国内高、海外安となっている。今後もこのような状況が続くと予想する。

＜金属表面処理＞

① 先月に比べてスポットが非常に少なかったため、厳しい結果となった。来月も同じような状況が続くと思われる。